

論説

宮武 剛

この1年は、新型コロナウイルスの発生で始まり、その猛威を抑え込むワクチンの登場で暮れつつある。

超スピード開発のワクチンは、有効性と安全性に一抹の不安はあるものの、まづ英国、米国で接種が始まった。

日本では、米国のファイザー、モデルナ、英国アストラゼネカの3ルートで、



ワクチンや高額薬

全国民分が2021年前半までに確保される見通しだ。

購入額6714億円は公費で手当され、無料接種される。ファイザー製は零下70度前後での保管が必要で、これらさまざまな接種体制の整備費5736億円が第3次補正予算案に追加

り100万円近い。国と地方の累積債務は概算1200兆円に達した(今年度1億7464万円の史上最高)の月額医療費が確認され民1人当たりざっと1000万円もの借金だ。

この財政危機下で、無料の接種をずっと続けられるかどうか。歳出の厳しいチエックと新たな歳入策、つ

金の切れ目と命の切れ目

された。ただし、予防効果の持続性は、いまだ不明で、1年ごとなど繰り返し接種が必要かも知れない。

コロナ禍の財政出動で、今年度の新規国債発行は1兆2兆円余、国民1人当た

り100万円近い。国と地方の累積債務は概算1200兆円に達した(今年度1億7464万円の史上最高)の月額医療費が確認され民1人当たりざっと1000万円もの借金だ。

みやたけこう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院理事長

るみ経済的に破綻した。文字通り「金の切れ目が命の切れ目」を引き起こした教訓を踏まえた特例だ。

通常は高額療養費制度が適用される。たとえば現役世代で3割負担の場合、医療費が100万円でも自己負担は30万円ではなく9万円弱で済む。

「国民皆保険」は1961年度発足で来年度には60年を迎える。「皆保険」とは、国民全員が単に保険証を持つだけではない。私たちの暮らしと人生が「地獄の沙汰も金次第」に陥らない安心の体系を具体化してきたのだ。

開発途上国では、全国民への無料供与は不可能に近く「地獄の沙汰も金次第」の苦境に直面しつつある。感染症の予防や難病の治療は、高額な費用の調達・分担の闘いでもある。

「国民皆保険」は1961年度発足で来年度には60年を迎える。「皆保険」とは、国民全員が単に保険証を持つだけではない。私たちの暮らしと人生が「地獄の沙汰も金次第」に陥らない安心の体系を具体化してきたのだ。

訂正

前回11月30日付の論説中、

「国民1人当たり100万円の借金」は1000万円